

二〇〇九年八月二四日(天王寺)

乱れ飛ぶ水面に影や秋あかね	ぼんこ
夕潮に白き腹見せ鰯はねる	"
秋思われ腰痛封じの石に座し	菜々
辿りゆく家隆塚へ露の坂	"
露の石めきし路傍の羅漢かな	つくし
滴れる磨崖観音地獄谷	よし子
秋暑し達筆すぎて読めぬ歌碑	満天
標高千一輛列車風涼し	はく子
白樺の林隠れに露の宿	"
身に入むや戦禍の残る多宝塔	"

吟行句会みのる選

二〇〇九年八月二四日(天王寺)